頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム
酸化ストレス仮説に基づく新規精神疾患創薬のための国際共同研究（整理番号：S2603）

【講演会等 開催報告】

演題： ミトコンドリアの障害･品質管理研究の最前線

演者： Luca Scorrano（パドヴァ大生物），岡本 浩二（阪大院生命機能），齋藤 達哉（阪大微研），関根 史織（東大院薬），山田 勇磨（北大院薬），新谷 紀人（阪大院薬）

日時： 平成27年3月27日（金） 15:00～17:30

Scorrano博士（左）と、国内からは4名の若手シンポジストにご講演を頂きました。

去る２０１５年３月２７日（金）、日本薬学会第135年会（神戸）において、大阪大学の岡本博士と派遣者の新谷とがオーガナイザーを務めるシンポジウム、「ミトコンドリアの障害･品質管理研究の最前線」を開催致しました。
Luca Scorrano 教授（Department of Biology, University of Padua）から、ミトコンドリア研究における歴史的ターニングポイントと、その中でScorrano研が果たした役割に関するレクチャーがあった後、国内の先生方から、ミトコンドリア分解（岡本博士）、自然免疫とミトコンドリア（齋藤博士）、ストレス反応とミトコンドリア（関根博士）、ミトコンドリア送達型の薬剤開発（山田博士）に関するご講演があり、新谷からも糖尿病下の膵島で発現減少する新規のミトコンドリア動態制御因子の発表を行い、どのようにしてミトコンドリア機能を正常に保ち病態の改善へと繋げるか、についての議論を致しました。
薬学では馴染みの少ないテーマであり、また全てのシンポジストを40代以下の若手研究者にお願いするという形を取りましたが、発表会場は常に100名以上の聴衆で埋め尽くされ、シンポジウムの終了後も会場内で様々なディスカッションが行われるなど、一定の成果があったと考えております。

大阪大学大学院薬学研究科　新谷　紀人